

3月例会報告

【日時・会場】2002年3月25日(月) 19:00～筑波大学附属高校会議室→～1:00 カリнка

【参加者(会員)】加納樹里(中央大学) 齊藤健司(神戸大学) 中塚義実(筑波大学附属高校) 橋本潤子(フリーライター) 湧田龍治(一橋大学)

【参加者(未会員)】増田徹(infinityメンバー/学生サッカー祭フットサル部門長) 吉田祐介(infinity代表/学生サッカー祭実行委員長)

【カリнкаから参加】本多克己((株)クラブハウス) 村林裕(FC東京/JAWOC宮城支部)

注)参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

ワールドカップの"物語"をいかに集めるかー2002年(以降)のサロン2002を考える(3)

話題提供:ワールドカップ・プロジェクト2

1～2月例会を受けて発足した「ワールドカップ・プロジェクト2」の話題を中心に、ワールドカップの“物語”をどう集めるかについて議論した。年度末であり、いくつかの会合と日程が重なっていたこともあって参加者が少なく残念だったが、カリнкаでの議論も含めるとかなり充実していた。

本報告は、当日の資料と参加者の発言(カリнкаでの議論も含む)をもとに再構成し、参加者のチェックを経て公表するものである。

<目次>

<1>「ワールドカップ・プロジェクト2」関連の会合等報告

1. ワールドカップ・プロジェクト2会合ー3月14日(水)
2. 横浜合同連絡会議(仮称)会合ー3月23日(土)
3. 2002ワールドカップ横浜定住外国人フットサルフェスターー3月24日(日)
4. 神戸スポーツ応援団
5. その他

<2>「ワールドカップの“物語”」のとらえ方(中塚義実案)

<3>HP上での展開と今後

<4>MLについて

<感想・意見(中塚義実)>

<1>「ワールドカップ・プロジェクト2」関連の会合等報告

1. ワールドカップ・プロジェクト2会合ー3月14日(水)

会合の内容については既報のとおり。

- 1) ワールドカップに関わるあらゆる“物語”を集める
- 2) “物語”の主人公たちのネットワークを構築する

この2つの目的を達成するために、以下の3種の活動を行うことが大枠で確認されている。

- 1) サロン 2002 のホームページに掲示板を設けて“物語”を集める、
- 2) ワールドカップシンポジウムを開催して顔を突き合わせる機会を設ける
- 3) 報告書（または出版物）を作成してより多くの人に公開する

2. 横浜合同連絡会議(仮称)会合－3月23日(土)

決勝開催地横浜では、現時点で様々な団体が大会を盛り上げるべく、それぞれ独自に活動している。互いの活動状況を把握し、連携を取りあっていること、「サロン 2002：ワールドカップ・プロジェクト 2」の横浜担当（仮）として梅本氏が「仮呼びかけ人」となって以下の団体に声をかけた。参加者（所属団体）は以下のとおり（順不同）。

中塚義実（サロン 2002） 梅本嗣（サロン 2002・F ソシオ） 橋本潤子（サロン 2002・フリーライター） 片岡麻衣子（LOVE JAPAN） 深沢篤嗣（LOVE JAPAN） 中西敦（LOVE JAPAN） 大家啓伸（F ソシオ） 三浦大和（プロジェクト 2002） 佐藤正次（プロジェクト 2002） 浅野智嗣（日本サポーター協会（J S A）） 野上龍哉（日本サポーター協会（J S A）） 吉田祐介（インフィニティ・学生サッカー祭 2002 実行委員会） 元田智博（学生サッカー祭 2002 実行委員会） 川島裕一（2002 ワールドカップ市民の会） 青野栄一（横浜青年会議所） 戸村賢一（フリーライター） 他 1 名

各団体の活動概要は以下のとおり（議事録より一部抜粋）。

●日本サポーター協会(JSA)

全国の各地のサポーター団体との連携を通じて、ファンビレッジ構想を各地で実現するため活動中。横浜に関してはファンビレッジ計画に何らかの形でかかわるべく活動している。

●LOVE JAPAN

- ・主としてメディア向け（サポーターも含む）に「SANPO ツアー」を開催
- ・海外サポーター向けに「日本体験コーナー」を設置

●プロジェクト 2002・F ソシオ

- ・JAWOC 管理区域外で、缶バッジ製作機「缶バッジヨ君」を使ったイベントを企画中

●インフィニティ・学生サッカー祭 2002 実行委員会

大学生が元になった団体で、高校生・大学生も含めて「日本にサッカー文化を作ろう」という草の根活

動を行っている。

- ・学生サッカーパーティを、日本ーノルウェー戦にあわせて開催予定。
- ・ワールドカップ期間中は、みなとみらい 21 のサッカーパークでサッカーイベントを行おうと計画。
- ・6月30日には横浜ベイホールをオールナイトで使い(仮押さえ済み)、学生サッカー祭 2002 を行う
- ・7月以降もイベントを開催予定

●2002年ワールドカップ市民の会

- ・メディアセンターの方々と交流の場を持つ計画あり。横浜市民とともに盆踊り大会など
- ・32か国フットサル大会を、ワールドカップと同じ組み合わせで行う予定
- ・語学バッチを製作し、横浜市内で配布

●横浜青年会議所(JC 横浜)

- ・日本大通(関内駅前、横浜市庁前)で、85ブースを出して物産展やストリートイベントを開催予定。
- ・300インチの大画面を用意して、子供たちに「サッカーゲームでワールドカップをやろう」というイベントを開催予定。
- ・横浜開港祭(6月1日、2日)を開催予定。ここで缶バッジを使うというのもいいかもしれない。
- ・JCとしてもボランティアを募集中。ぜひ協力してほしい。

3. 2002 ワールドカップ横浜定住外国人フットサルフェスター3月24日(日)

横浜みなとみらい21のサッカーパークにて、フットサル大会と、参加各国の料理が楽しめる屋台が出て、表記イベントが行われた。ペルー、ブラジル、イラン、日本、韓国、混成チームなどが参加。「皆フットサルになると熱くなる」(参加された吉田氏談)。

定住外国人ボランティアの具体的な活動については、現在検討・調整中とのこと。

4. 神戸スポーツ応援団

神戸では、「オープンマインドメンバーの集まり」である「神戸スポーツ応援団」が、MLを中心に情報交換しながら準備を進めている。3月22日には会議を開き、「こうべファンヴィレッジ(仮称)」(従来「にぎわい広場」と呼んでいたものを、JSA推奨の全国共通呼称である「ファンビレッジ」に改める)を「東遊園地」で行うことや、「クリーンカップ2002」と称して「5月25日(土)14:00~15:00 三宮駅、元町駅、兵庫駅近辺でゴミ拾いをする」ことが計画されている。行政と一体となった取り組みが特徴か。

5. その他ー学生たちの動き等

サロンでも紹介された「LOVEJAPAN」(片岡麻衣子代表)や、「infinity」(吉田祐介代表)など、インターカレッジの学生サークルが様々な活動を行っている(関西の動きは紹介されなかった)。

しかしながら、学生団体同士の連携も今ひとつ。連携をとりたいのだがきっかけがない。「なぜか分散している」現状が指摘された。

これについては「インターネットの影響があるのでは」、すなわち「団体を作ってホームページを立ち上げ、そこで完結（満足）している傾向がある。実際に人とつながろうとする動きが少ないのでは」という意見や、「学生からは、実際に何をしたいのかが見えてこない。だから具体的な、形のあるところに集まってくる」傾向があるとの意見があった。この他、以下のような意見があった。

- ・イベントで盛り上がる時に集団は盛り上がる。ただ集まるだけではだめ
- ・サッカーを「する」系のサークルはたくさんあるが、みる系、語る系、あるいは何かをやってみよう系となると少ない。何かをやってみようというというのはサッカー系サークルよりもむしろ、音楽系、クラブイベント系のサークルの方が乗ってくるし戦力になる
- ・大学のカラーもあるようだ。中央大学は「する」系のサークルが非常に多い。
- ・何かきっかけがあると学生は一気に動く。
- ・同じことは、“若おじさん”たちにも言えている。「何かしたい。けどどうすればいいかわからない」という人が一杯いる
- ・そういう人たちに、「ワールドカップの“物語”」を見せてあげると元気になるのではないか。2002年は間に合わなくても、いつか別のところで動き出せる勇気とネットワークができるのではないか

< 2 > 「ワールドカップの"物語"」のとらえ方（中塚義実案）

現時点で既に、ワールドカップをささえる「市民活動の物語」は多数存在する。もちろんこれらはごく一部であって、全国各地を見渡せば、もっと多様な団体や活動の兆しがあるだろう。

また、ワールドカップの"物語"は、ささえる物語だけではない。多様な物語を収集することによって、世界最大のイベントの全体が理解でき、幅広い文化としてのスポーツが理解されるのにつながるだろう。

たまたま、学研の教科図書編集部から依頼された「"総合的な学習の時間：ワールドカップ"の提案」が、"物語"を整理する上で一つのヒントとなりうるので紹介した。

2002年度から中学校で、2003年度からは高校で導入される新教育課程では、教科の枠を越えた「総合的な学習の時間」が置かれることになる。その題材としてワールドカップを取り上げ、年間35時間の授業で取り組む案がここで示したものである。はじめの15時間を各教科での持ち回り講義、後半15時間を生徒自身が興味を持ったテーマについてグループ研究・レポートにまとめる時間、最後5時間をレポート発表会としている。はじめの15時間の講義は、「ワールドカップの"物語"」を順に追っていく内容となっている。

- 1) F I F Aワールドカップとは－歴史と2002年大会
- 2) 国と地域の物語
- 3) 選手とチームの物語
- 4) ユニフォームと用具の物語
- 5) スタジアムの物語

- 6) 芝生の物語
- 7) 旅行者としてのサポーターの物語
- 8) サポーター行動の物語
- 9) 関係組織（F I F Aと組織委員会）の物語
- 10) 国と自治体の物語
- 11) スポンサーの物語
- 12) 市民活動の物語
- 13) 新聞・雑誌の物語
- 14) テレビの物語
- 15) 祭りの後の物語

これが一つの枠組みとなろう（ちなみにこの授業は、2002年度に、筑波大学附属高校の中塚担当の「体育理論」で試みる予定。12月には公開授業も予定している）。

< 3 > HP上での展開と今後

1. HPでの"物語"の集め方

HP上に"物語"が集まる場を設けることは決まっていたが、どのような形が望ましいのかについて月例会の中で議論した。その後のカリンカで、HP担当の本多氏が大阪から合流してからはさらに具体的な話になった。結論のみ以下に述べる。

- 1) 誰でも閲覧できるように公開する
- 2) 投稿には2段階設ける

●トピック(仮称)…「ワールドカップの"物語"」が集まる部分。物語の主人公（当事者）が自分自身で書き込むこともあれば、サロン会員が取材して書くこともある（ID、PWを知っている人が書くような形）。ここは「記名」。

●コメント(仮称)…トピックについての感想や意見、関連する話題や返信が集まる部分。誰でも自由に書き込める。「匿名」も可。ツリー表示される、普通の掲示板のイメージ。

- 3) 4月第1週に仮オープン。約1週間の試行期間の後、大々的に告知して本格的に始動する

4) 最初のコンテンツが重要。アイデアとしては、「98年の物語（フランス大会での体験談。思い出話など）」「市民活動の物語（横浜や神戸等の動向の紹介）」「大学生の物語（LOVEJAPAN や infinity など の活動紹介）」「高校生の物語（筑波大学附属高校サッカー部が"開幕 50 日前校内フットサル大会"等を企画しているといった話等）」などをあらかじめ用意しておき、アップと同時に公開したい。

- 5) 格調高い、しかし短い前文がほしい

これは中塚義実が担当する（プロジェクトメンバーの確認必要）

2. その後について

7月末に「ワールドカップ総括シンポジウム」を開いて、「ワールドカップの"物語"」の主人公同士が集まる場を設けたい。これは毎年1回行う。

集まった"物語"は何らかの形でまとめて印刷物にしたい。

現段階ではこの程度のイメージ。あまり先のことは考えず、とりあえず"物語"を集めることに力を注ぐ。

< 4 > MLについて

1. ワールドカップ・プロジェクトⅡのMLについて

3月14日の会合のときは「プロジェクトのMLについてはFCJAPANが担当」となっていたが、サロンHPの領域からはずぐにはML立ち上げは難しいとのこと。

無料のMLもあるのだが、ウィルス対策などをやってもらえる有料の管理会社がいいだろうということで、公式MLと同じ方法、手順で開設することとなった。「サロンメーリングリストはCALMNETという管理会社と契約しており、最大メンバー500人まで登録可能」(ML担当:湧田氏)。プロジェクトⅡのMLも同様に、管理人湧田氏、管理会社はCALMNETで至急立ち上げることとなった。経費は、プロジェクトの経費(月例会の話題提供謝金など)から捻出する。

2. 公式MLについて

これも既報のとおり、2002年度のサロン会員はひとまず全員がMLに登録し、はじめてから不都合があればMLのみ抜けることを確認した。2002年度会員登録の1次募集期間(名簿に掲載される)が3月中なので、その時点での申請者で公式MLを動かしたい

< 感想・意見(中塚義実) >

3年間、持ち上がりで担任していた高校生も、今春無事卒業し、2002年の私はずいに自由な身となりました。「いよいよ始まるぞ～」という気分です。かなり気合入っています。

そんな矢先の今回の月例会でしたが、参加者はまたもや少なく、非常に残念でした。今回の「感想・意見」は、そのことに関してちょっとだけ苦言を呈したいと思います。

年度末という日程の問題もあったのでしょうか。同日、会員がかかわる会合がいくつかあったことも聞いています。けど、月例会の参加者が減ってきている現象は今回ばかりではありません。いや、参加者数の減少自体はあまり大きな問題ではありません。むしろ会員の無関心傾向の拡大の方が問題なのです。特に1~3月は「2002年度(以降)のサロン2002を考える」という、自分たちの団体の将来を左右するかもしれない大切なテーマだったのです。月例会に参加できないまでも、メール等でもっと意見がいただけるものと期待していたのですが…。2001年度を振り返って、サロン2002の活動の大きな柱である「月例会」が軽んじられている傾向が非常に気になります。

そういえばサロン 2002 の前身の時代、もっと小規模で互いの顔がわかっていた頃は、月例会に欠席するときは必ず連絡していました。それはマナーでした。「ごめん、今回は他の用があって」と互いに言葉をかけることで、互いが理解できるのです。規模と範囲が大きくなった会員制のサロン 2002 は、ネット上で展開しているからこそ、互いのコミュニケーションの頻度を高く保つ必要があると思うのです。本質は、小規模だった頃と何ら変わりません。「サッカー・スポーツを通して 21 世紀のゆたかなくらしづくり」を意図する熱い人々のネットワークなのです。話せばわかるのです。

"Give and Take"の意味を、メンバーがそれぞれよく考えておられることが、メールから読み取れます。特に退会される方のメッセージからは、それぞれの事情も含めてよくわかります。しかし、"Give"をあまりにも短期に、限定的に捉えることはありません。ある会員が、「私としての Give は、私の通常フィールドでサロンの情報をいかに活用して"志"に近づくように活動するかということだと考えています」と言われました。そのとおりであり、それでいいのだと思います。

そして同時に、月例会にあわせて遠方（関西方面）から上京してくる人がいることや、カリンカからでも駆けつけようとする人がいるということ、あるいは「今回も出席できなくてすみません」のメールを必ず入れてくれる人がいることをご承知おきください。「できること」は意外に小さなところにあるのです。本年殿の月例会報告は全て中塚義実が作りました。非常に変則的な、望ましくない状況です。月例会に参加できなくても、「録音テープを送ってほしい。今回は報告をまとめるよ」と言ってくればどれだけありがたいか。そうした形の"Give"は十分可能です。「私がやります」というお申し出を、私はいつも待っています。

繰り返しますが、「サロン 2002」は、"志"に賛同する人のネットワークです。"志"の実現方法はいろいろあっていいのです。"Give and Take"の形も一様ではありません。

そして、ワールドカップの"物語"もいろいろです。

ワールドカップ・プロジェクトⅡは、サロン 2002 そのものと言っていいかもしれませんね。